

リーダーたちの本棚

Leader as Readers

技術力を駆使し より良い音を

【率いる】
Leading

Bose Corporationは、米国マサチューセッツ州を拠点とする研究開発企業。創業者のボーズ博士は、バイオリンを弾き、音楽を愛した。マサチューセッツ工科大学で学んでいた時にスピーカーを買い、そこから流れてくる音が演奏に程遠いことに驚き、スピーカーの研究を開始。1964年に創業し、「演奏の感動を再現する」という理念のもと、数々のヒット商品を世に送り出した。

挽野さんは、前職でコンピューター関連製品の開発やプリンティングビジネスを担当。デジタル分野の知見とグローバルな業務経験を携え、今年1月に同社日本法人の社長に就任した。口ぐせは、「コンフォートゾーンを外れる」。慣れ親しんだ職場環境をあえて捨て、新天地に飛び込んだ。

「ボーズには、デジタル技術を進化させつつ、創業のアナログ資産を大事に育む企業文化があります。デジタルの世界は、コアな技術を押さえれば、既存製品を容易にまねてきてしまう。ボーズは、わずかな空気振動を大きな音エネルギーに変換する共振管など、他がまねていない職人的な技術を持っています。ボーズは、大学院時代の私のベースに近い、アナログを含めた研究開発企業であり、そこにとてもひかれました」

新しい音楽シーンにも対応

研究開発力に加え、株主至上主義の米国に本社を構えながら、非上場企業であることも同社の特色だ。

「開発しているのは、お客様に真の価値を提供できる製品。中・長期的なレンジでその技術に投資するために、株主だけの意向に左右されない環境を守り続けているのです」

その成果物は、旧来型のスピーカーにとどまらない。音源をダウンロードしてスマホなどで聴くリスニングスタイルに対応する製品も次々発表している。今夏発売した「サウンドリンク ミニ Bluetoothスピーカー」は、手のひらに収まるサイズながら音質が高く、スマホやタブレットに収めた音楽をワイヤレスで聴ける。「ウェブミュージックシステムIII」は、CDもワイヤレス(別売アクセサリが必要)も楽しめるプレイヤー。騒音を低減するノイズキャンセリングヘッドホンの新製品は、騒音の低減だけでなく、人の声など外部の必要な音のみ選択的に聴くことも可能だ。

「ボーズには、長い間ボーズ・サウンドを愛してくださっているお客様が数多くいらっしゃいます。一方、最近では10〜20代の若者から称賛の声を数多く頂戴しています。音楽を愛する人すべてに、世代や性別を超えてよりよいサウンドを届けたいですね」

就任以来、酒席なども交えて社員と活発に意見をやり取りしている挽野さん。理想とするのは、Participative Leadership(参画型リーダーシップ)。

「社員自らが考え、提案し、責任を持って行動できる「自立・自律・自走」の環境づくりを目指しています。多少の失敗はあっても、行動しないよりいい。失敗を糧に成果を導き出せる人が増えるほど、会社は強くなると思います」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、挽野元さんが語るリーダー論を紹介しています。
<http://adv.asahi.com>
朝日新聞 広告 検索



挽野元さん
1967年横浜市生まれ。92年武蔵工業大学(現・東京都立大学)大学院工学研究科修了。同年横河・ヒューレット・パッカド(現日本ヒューレット・パッカド)入社。フランス駐在、アジア・パシフィック担当などを経て2006年執行役員、11年取締役。今年1月ボーズ代表取締役社長就任。

挽野元さんのおすすめ本棚

『甦る 全日本女子バレー―新たな闘い―』
アテネ五輪に出場するまでにチーム力を復活させた要因は何か。チーム力の必要十分条件を解き明かすスポーツドキュメンタリー。(品切/重版未定)

『生物と無生物のあいだ』
「生命とは何か」という生命科学最大の問いに分子生物学はどう答えるのか。歴史の闇に沈んだ天才科学者たちの思考を紹介しながら現在形の生命観を探る。

『ビジョナリー・カンパニー―時代を超える生存の原則―』
時代を超え、際立った存在であり続ける企業の源泉を探るベストセラー。競合企業との比較などから、従来の経営神話を看破。基本理念の大切さを説く。

『2050年の世界 英「エコノミスト」誌は予測する』
英「エコノミスト」編集部・著 東江一紀 筆村利哉・訳
イギリスの「エコノミスト」誌が総力をあげ、科学、政治、人口、経済、女性、ソーシャルネットワークなど20の分野で2050年までの世界を予測。

『日本の経営を創る 社員を熱くする戦略と組織』
数々の企業を再建した三枝氏と、経営学の第一人者である伊丹氏が、人材育成や組織作りなど、様々な視点から新しい「日本の経営」のあり方を探る。

R 読書感想文が仕事の訓練に

【読む】
Reading

数々の革新的な音響技術を持つブランドとして知られるボーズ。率いる挽野元さんは、忙しい合間を縫って書店に通う。「読書は、自分が体験できない世界に触れ、知識の引き出しを増やす術。書棚の本の並びを見るだけでも気づきがあります。紙の匂いやページをめくる触感も刺激になる。書店と本はインスピレーションの源です」

バレエのチーム作りを 自身の課題と重ねる

親から「本から学べ」と言われて育ちました。子供の頃は、シャーロック・ホームズシリーズや小松左京さんの作品など、推理ものやSFものに親しみました。今はジャンルを問わず何でも読みます。

「甦る 全日本女子バレー―新たな闘い―」は、バレエボール観戦が好きなことから何げなく手に取りました。前職で企業合併による組織再編があり、違う境遇で働いてきたメンバーをどうやってまとめようかと悩んでいた時に読み、思いがけずビジネス書として参考になった本です。お家芸といわれた日本バレーが勝てなくなる中、2003年に監督となつた柳本晶一氏は、日本バレーボール協会の反対をものともせず、シドニー五輪出場を逃した要因とされた選手を起用し、五輪を経験した熟練選手を精神的支柱に据え、成長著しい10代の選手を加えてチームを編成します。年齢も背景も異なる個性が共鳴し合う環境をいかに作るか。選手自らが判断し、行動する構図をいかに築くか。柳本氏が直面した課題を自身の課題に重ねて読みました。彼らの試合をリアルに観戦しましたが、エキサイティングでとても面白かったです。

前職でお世話になった上司が勉強家で、私にもいろいろな本を勧められました。しかも、「感想文を書いて」と言う。勧められるのは難解な本ばかり。書くのに骨が折れましたが、自分の理解を高め、考えを整理し、人に伝える訓練になりました。仕事に活用できる大切なことを教えてくださったのだと思います。その上司の推薦本の一つが、シュレーディンガーの「生命とは何か」。これがあまりに難しく、生命についてわかりやすく書いた本が他にないかと探してめぐり合ったのが「生物と無生物のあいだ」です。生物学者である福岡伸一さんの文章が美しく、生命の成り立ちを小説感覚で読むことができました。ノーベル賞級の発見を

めぐる競争など、科学者たちの研究裏話も興味深く読みました。

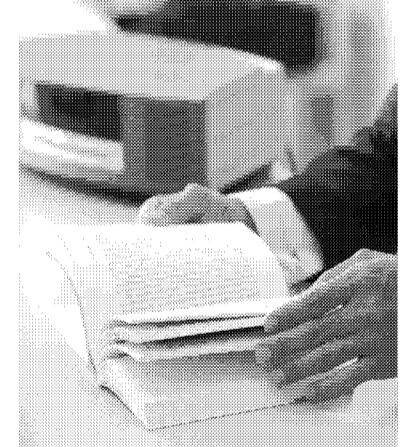
自社の可能性を確認し 経営のヒントをもらった

「2050年の世界 英「エコノミスト」誌は予測する」は、人口、経済、科学技術、環境など様々な観点から未来を予測します。特に、「音楽、映画、文学などの娯楽は、実は優れてローカルなものである。通信の発達では世界の距離を縮小させるが、これらの娯楽は、引き続き文化に裏打ちされたローカルなものが各文化圏で優勢をたもつだろう」という一文が目が留まりました。音楽をいかに聴きたいというニーズは万国共通で、ボーズはグローバルにそのニーズに応えています。本書では、インド、アフリカ、中東の人口増大と経済成長を予測しています。地域特有の強烈なコンテキストを持つところから、ビジネスが広がるだろうと考えました。すべてが当たるとは思いませんが、未来を思考するきっかけをくれる内容で、社員にも勧めたいです。日本人もグローバルに活躍できる準備をもっとすべきです。

『ビジョナリー・カンパニー 時代を超える生存の原則』は、「BUILT FOR LAST」

という原則が意味するように、企業をいかに継続させるかを検証します。本書が説く「基本理念を維持し進歩を促す」という概念は、当社の歩みそのものです。創業者がマサチューセッツ工科大学の教授でもあったアマール・G・ボーズ博士の「演奏の感動を再現する」という理念を維持し、イノベーションを起こし続ける企業、それがボーズです。自社製品が大好きな社員が多い点は、「ビジョナリー・カンパニー」にはカルトのような文化があるという指摘に当てはまりません。著者の一人、ジェリー・I・ボラス氏のセミナーに参加していたこともあり、有意義な議論を交わさせていただきました。そうした意味でも印象に残りました。

『日本の経営』を創る社員を熱くする戦略と組織」を創る社員を熱くする経営者の伊丹敬之氏の対談集です。企業再生の実話をもとにした三枝氏の著作群、いわゆる「三枝3部作」を読んですから、本を読むことをお勧めします。企業変革の肝である「論理性」と「熱き心」、組織を小さく分けて個々に意思決定権を持たせる「スマールイズ、ビュティフル」の考え方や、経営者の心得として参考になることばかりです。伊丹氏のアカデミックな視点もたいへん、私にとっては宝石のような言葉が散りばめられている教科書です。(談)



おかげさまで 創業80周年 **三笠書房** 千代田区飯田橋3-3-1 <http://www.mikasashobo.co.jp>

電子版は **三笠書房 BOOKSTORE** www.mikasabooks.jp で購入できます。

80 珠玉の名著 新装版!!
「人生に最も影響を与えた本」
ベストセレクト

考える力をつける本
100万部突破のベストセラーロングセラー
情報整理、発想の技術まで
推薦! 白取彦彦氏
「考える力をつける本」(ベストセラー)
「超訳 ニーチェの言葉」(編訳者)

轡田隆史
ISBN978-4-8379-2513-2 ●1155円

武士道 新渡戸稲造 [著] 奈良本辰也 [解説]
いま人は何を考え、どう生きればいいのか
ISBN978-4-8379-2512-5 ●1050円

自助論 サミュエル・スマイルズ 東大名誉教授 竹内均 [訳]
「こんな素晴らしい生き方ができたら!」を実現する本
ISBN978-4-8379-5744-7 ●1155円

自分が変わるための
15の成長戦略

人は何のために
生きるのか、働くのか
生きるための
15の成長戦略

佐々木常夫 監訳
ジョン・C・マクスウェル
ISBN978-4-8379-5741-0 ●1155円

「手の届きそうにないところ」まで
手を伸ばしているか!

- ◎よい習慣は、才能を超える
- ◎人生に「予行演習の時間」はない
- ◎どんな人物なら「教を請う」価値があるか
- ◎「及第点」より、「最高点」を狙え
- ◎自分自身を「使い尽くして」生きよ
- ◎「なぜ」を座右の銘にする

発売1カ月で
6刷
8.5万部!

余計な悩みを抱えないように、他人の価値観に振り回されないように、無駄なものをそぎ落として、限りなくシンプルに生きる。――著者

減らす、手放す、
忘れる「禅の教え」

- ◎不安や悩みの9割は、妄想から生まれる
- ◎情報の暴飲暴食があなたの心を不安定にする
- ◎誰かと「悪い縁」を結んでいないか点検すべし
- ◎前向きに生きていく人は、例外なく「潔い人」
- ◎「朝」を大事にする人は、「自分」を大事にする人
- ◎「怒り」の感情は頭にまで上げるなという教え
- ◎世の中捨てたもんじゃな、とどだけ思えるか
- ◎死ぬことは仏様にお任せしてしまえばいい
- ◎大地黄金 ― 今いる場所で働く人になる
- ◎大事なことは、夜に判断してはいけません

曹洞宗徳雄山建功寺住職
枅野俊明
ISBN978-4-8379-2508-8 ●1260円

心配事の9割は起らない
起らない
心配事の9割は起らない
枅野俊明